

②道の駅「たのうらら」

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所
大分市

キーワード にぎわいの創出と周遊の促進

全建賞審査委員会の評価ポイント

海岸沿いの立地を踏まえ、別府湾の穏やかな海や高崎山の稜線をイメージした緩やかな曲線が連続する屋根と白色の外壁デザインにより、周辺景観との調和を実現するとともに、大分県産材の積極的な活用、自然光の利用やリサイクル資材の活用等により、環境負荷の低減にも配慮し、休憩施設及び地域振興施設を一体的に整備した点が評価された。

1. はじめに

道の駅「たのうらら」は、大分県大分市と国内有数の観光地である別府市を結ぶ国道10号（通称：別大国道）沿いに位置し、令和6年7月7日に大分県内で26番目の道の駅として開駅した。

約6万台/日の交通量がある別大国道は、県内外の物流や地域間の交通連携を支えるとともに、海岸沿いの景観が美しく、サイクリストやランナー等、多くの人に利用されている。

近隣には、高崎山自然動物園や大分マリーンパレス水族館「うみたまご」等、大分市を代表する観光地に加え、田ノ浦ビーチ等のレジャーも楽しめる多彩な観光スポットがあり、優れたアクセス性と立地条件を活かした大分市の観光における玄関口として、設置者である大分市と道路管理者である国土交通省が連携し、一体型道の駅としての整備を進めた。



道の駅「たのうらら」施設全景

2. 事業の概要

「おおいたの魅力を“体感・発信・つなぐ”にぎわいと交流の拠点施設」をコンセプトに、事業手法としてDBO方式（Design-Build-Operate）を採用し、民間企業のノウハウ、経営能力や創意工夫等を活用して整備を進めた。

並立する地域振興施設（市）とトイレ（国）を、別府

湾の穏やかな海や高崎山の稜線をイメージした緩やかな曲線が連続する屋根と白色の外壁を基調とした外観デザインとし、周辺景観との調和に配慮した。

また、大分県産木材を積極的に活用するとともに、自然光を取り入れた開放的な空間整備、リサイクル資材の活用等により、環境負荷の低減にも努めた。

3. 事業の成果

道の駅「たのうらら」では、大分の歴史文化の情報発信として、昭和40年代に大分―別府間を走っていた路面電車を展示しているほか、大分市が西洋音楽発祥の地であることを踏まえ整備された「おとの聴こえる広場」には、だれでも自由に弾けるストリートピアノが設置され、音楽イベント等の開催により、来訪者がにぎわいと癒しを感じられる空間を提供している。

また、外国語対応が可能なコンシェルジュを配置し、きめ細やかな観光情報を発信するとともに、他の道の駅と連携し、周遊観光を促す取組を行っている。

さらに、子どもたちがのびのびと遊べるキッズスペースや自転車利用者を迎えるサイクルステーションを備え、幅広い年齢層に親しまれる施設となっている。



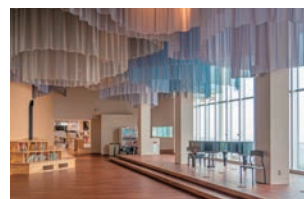
地域振興施設外観



路面電車



たのうら市場（1階）



おとの聴こえる広場（2階）

4. おわりに

道の駅「たのうらら」は、開駅から約2年後の令和8年5月には、来場者数が100万人を超えた。

引き続き、「観光における大分市の玄関口として、にぎわいの創出と周遊の促進」に向けた取組を進めるとともに、市民や道路利用者にとっての憩いの場となることが期待される。

賛助会員 株大有設計